



日刊工業新聞

2014年(平成26年)

11 5

14
版

発行所◎日刊工業新聞社2014

Business & Technology

第22002号 水曜日

本社 03・5644・7000 東京都中央区日本橋小島町14-1 大塚支社 06・6946・3321 大阪市中央区北浜東2-16 名古屋支社 052・931・6151 名古屋市東区東2-21-28 西部支社 092・271・5711 福岡市博多区古門戸町1-1



常務

椋木 民男氏

平安製作所(滋賀県高島市、高橋鉄次社長、0740・27・1271)は、金属プレス加工を用いた自動車エンジン部品やトランスミッション部品を主力とする。革新的な生産技術を武器に、自動車メーカーへの製品・技術提案活動に力を入れる。その一翼を担うのが調達活動。同社の調達は鋼材が中心で、製品・技術開発は素材メーカ

力素材と連携
情報交換で技術力磨く

調達 NOW

平安製作所

一との連携がカギを握る。椋木民男常務に調達活動の戦略や意義などを聞いた。(長塚崇寛)

一購買活動の特徴は。

「自動車部品メーカーである当社の調達は鋼材がメイン。加工法によって最適な材料を選ぶが、それには素材の特性を知り尽くしている素材メーカーとの情報交換が肝となる。このため、素材メーカーと月に1回、技術交流会を開催。最新の技術動向や素材の開発動向などで意見を交換している。当社が素材メーカーに最新の加工技術を紹介することで、相手は材料の品質向上に役立てている。まさにギブ・アンド・テークの関係だ。高い技術力があれば、当社のような弱小メーカーでも大手企業と互角の交渉ができる」

一外部企業との連携も重要で

す。「金型や治具は開発志向型の当社にとって生命線。部品開発や試

購買担当役員に聞く

作は自社で実施し、協力会社に技術移転して量産金型を製作している。このため相互に守秘義務契約を結び、活発的な技術交流を行っている。お互いにより高度な技術を確立すべく努力しているため、取引は長期に継続している。新工法・新技術の源泉は金型メーカーとのコラボレーションにある」

一調達の課題は。

「当社は滋賀県北西部に立地する。周辺に同業者が存在しないこともあって、情報が遅れがちである。このハンディキャップを補うため、各種展示会や見本市、講演会などに積極的に技術者やバイヤーを参加させている。常に最新鋭の情報入手に努めながら購買活動を行っている」

むくのき・たみお 70年
(昭45)立命館大経営卒、同年京都銀行入行。95年ロンドン駐在事務所所長、99年審査部参事役。02年平安製作所入社、03年総務部長、05年取締役、14年常務。京都府出身、67歳。